

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は北見市で生まれ、小学生のころは、よく父とカレイやサケを釣りに行きました。その時、「毎年、同じ場所に来てても海岸の形が違うから、釣り場は、その都度、地形を見て変えるものだ!」と父が言っていました。小学生の私も数年釣り場に通り、父の言葉がわかったような気になりました。もしかしたら、このことが海を好きになり、現在の仕事を志すきっかけになったと思います。

その後、北海道東海大学で海の生物、環境、土木を学び、大学院では海岸工学を勉強して、修了後に建設コンサルタントに就職しました。このときは現場調査や防波堤などの設計、漂砂解析など様々な業務に携わり、経験を積むことで平成 20 年度に技術士(水産部門)に合格することができました。現在はいろいろあって寒地土木研究所に勤めています。研究所では水産土木チームに所属し、港湾・漁港が持つ生息場、産卵場など様々な機能を解明することや沖合・沿岸域の生態系に関する研究を行っています。

これらは現場で起こっている現象を生物学、環境学、海岸工学などの多様な視点から捉えることが必要であり、複雑で困難なことも多いですが、やりがいがある仕事と思っています。最近、研究を進めるうえで思うことは、小学生のころ釣り場を見て感じたように、当たり前ですが、現場をしっかりと見て思考を巡らせることが重要だと思っています。また、本報を執筆していて「今年 70 歳になる父と、また釣りに行きたい」、「親孝行しよう」と思いました。執筆の機会を与えて頂き、ありがとうございます。

最後に、これまで私を研究者、技術者として導いてくださった諸先輩に感謝するとともに、今後とも自己研鑽に励み、「みんなの役に立つ研究」が出来ればと思っています。

大橋 正臣

(おおはし まさみ)

- 水産部門(水産土木)
- 建設部門(港湾及び空港)

勤務先

(国研)土木研究所 寒地土木研究所
寒地水圏研究グループ



→次号は、松本英明さん(水産/建設部門)

エンジニアパークへの投稿の主な内容は「自己紹介、その他近況、話題提供など」となっていましたので、今回は「自己紹介」と多くの仲間に向けての「話題提供」を兼ねて投稿させていただきます。

平成元年に入社して平成とともに技術者生活を過ごし早 28 年目、既に 50 代の大台に突入しました。

振り返ってみると、25 歳で結婚し、30 歳で長男を授かり…(ちょうどこの頃より気になりだし)

…次男の誕生、そして技術士に合格した 35 歳頃にはピークに達した件、多くの技術者仲間も抱えている関心事、そうです「薄毛」です。私の地質技術者としての人生の中で最大の「話題」です。

そもそも父親の姿を見て育ち、なかばあきらめの境地を自覚していたつもりだったのですが、いざそうなってみると夢にまで登場する始末! 必死に原因、言い訳を考える日々を過ごしたこともありました。土木地質に携わる者の宿命、「埃まみれ」「汗だく」そして「ヘルメット生活」…原因には事欠きませんでした。

ただ、薄毛人生も経験を積んでくると(技術者として?)色々考えるもので、当然「ヘルメットを被る頻度と薄毛の関連性」など分析してみたり…周辺を見渡す限り明らかな相関が認められました。では、薄毛はなぜ劣等感を感じるのか? 「髪が少ないから?」というよりは「髪の少ない人の割合が小さいから?」それでは薄毛人口の割合はどのくらいなんだろう? と調べてみると、1982 年の某調査では 15.6%、それが 2007 年の某調査では 26.78%、なんと大幅に(11%も)増加しているではありませんか! このままあと 50 年もすると薄毛の方が優勢に? でも 50 年後の私は…100 歳か〜

以上、自己紹介と地質技術者の仲間達への話題提供、「薄毛に関する一考」でした。多くのリレートークを期待しましてバトンタッチさせていただきます。身近な「仲間」の安元さん、お願いします。

富岡 敬

(とみおか けい)

- 応用理学部門(地質)

勤務先

株式会社 ドーコン



→次号は、安元和己さん(応用理学部門)